



——NPO法人設立の目的は。

江川 外科というのは臨床試験に基づいたエビデンス（この治療法が良いといえる証拠）があまり蓄積されてこなかった分野で、それゆえ科学的根拠に立脚した治療方針が確立していないのが現状です。そこで、外科臨床研究をより強力に推進することで多くのエビデンスをつくり、優れた医療を施行し、それを東北から世界に向けて発信できるようにしようと、2012年4月、NEXT SURG

SURGを設立しました。

——NPO法人にした狙いは。

江川 NPO法により、法人格を与えられる特定非営利活動団体の分野（20分野）が決まっていますが、NEXT SURGの活動はその中の「保健、医療又は福祉の増進を図る活動」に該当します。外科臨床研究をより効率的に、透明性をもつて進めるにはNPO法人にするのが理にかなっているということで、以前、長陵協議会（研修医の育成事業等を行う組織）がNPO法人格を取得す

次世代の外科医療、災害医学を東北から発信！

るのに関わった私が、設立に参画することになりました。

実際、エビデンスを導くための外科臨床試験には多額の費用がかかる

NPO法人東北外科臨床研究推進機構(NEXT SURG)
副理事長

江川 新一氏

えがわ・しんいち 昭和37年生まれ。会津若松市出身。東北大学医学部卒業。現在、東北大学災害科学国際研究所災害医療国際協力学分野教授。長陵協議会をNPO法人化した経歴を生かし、東北外科臨床研究推進機構の設立に尽力。平成24年4月より現職。

のですが、私たちはその費用を、優れた医療の享受者となる国民（県民・市民）・医師・企業からの浄財（寄付）で賄わせていただく形態を考え、ご支援を呼び掛けています。

——賛同を得るための方策は。

江川 ひとつは市民公開講座の開催です。NEXT SURGでは内科と外科をセットにして、診断や治療について分かりやすく解説しています。もうひとつは、臨床研究に適合する患者さんを紹介してくださる関連病院や開業医に対するセミナーの

開催です。その中で最先端の理論や治療を紹介するのですが、われわれの活動を支援していただくためには、このような情報を広く提供していくことが大事だと考えています。

——震災後、東北大学で災害医療の研究がスタートしました。

江川 NEXT SURGと同じ12年4月、実践的防災学の創成をミッションとする災害科学国際研究所が東北大学に設置されました。巨大災害への新たな備えのパラダイム作

りのため、7部門36分野の研究者が集まり、私の所属する災害医療国際協力学分野では、災害時に機能する医療体制を再構築すべく、「災害医学」というまったく新しい研究分野に体系的に取り組んでいます。

——来年3月に仙台で開催の国連防災会議ではどのような提言を。

江川 私の役割は、災害に際しての新たな行動枠組みを示すことです。それを①災害医療の政策への反映、②災害弱者への対応、③災害後のメンタルヘルス、④災害に強い医療体制、⑤災害医療従事者の教育訓練という5つのテーマを挙げて解説し、「単に救急医療だけ行えばいいのではない」ことを、世界各国の人々に強く訴えたいと思っています。

ちなみに、災害科学国際研究所のロゴマークは一見アヤマメのように見えますが、実は「災」という字を反転させたもので、「災いを転じて復旧復興の促進や、災害に賢く対応できる社会に変えていく」という決意を表しています。国連防災会議をきっかけに、防災機能を高めるアクセスや施設の整備、災害に強いまちづくり、地域間のネットワーク向上などの多面的な取り組みが仙台を拠点に進み、より発展的な復興を遂げていくことができるよう期待します。



牛たん焼きを
仙台名物にしたお店

味の牛たん
たけなすけ
助